

5年生「スーパーグローバル」IDEC 連携プログラム

第1回実施報告

日時：2016年6月11日（土）13:00-16:00

場所：広島大学附属福山中高等学校内情報教育棟 マルチメディアホール

参加者：生徒27名，留学生10名，大学教員1名，教員4名

実施内容

SGHの一つの柱である「スーパーグローバルプログラム」は、異文化を背景とする人たちと英語で話をしたり、議論したり、合意形成したりするプログラムです。このプログラムの一つとして、広島大学大学院国際協力研究科（International Development and Cooperation: IDEC）の留学生とともに「環境」「教育」「平和」の3つのテーマについてグループで議論する「IDEC 連携プログラム」を全5回計画しました。発展途上国を取り巻く社会的課題について学び、英語で議論する機会になればと思っています。参加する留学生の出身国は、ポーランド、ベトナム、バングラデシュ、シエラレオネ、インドネシア、ミャンマー、中国、ラオス、ガーナの9か国、10名の留学生が参加しました。

第1部では、10名の留学生が、自分の研究テーマに関連して、英語で課題を発表しました。生徒たちは、配布されている資料に目を通しながら、時折辞書で語句を調べたりして、英語による発表を真剣な表情で聞いていました。広島大学の中矢先生が、留学生のプレゼンテーションの時間管理をしてくださり、設定された時間の中でわかりやすくプレゼンテーションをするように留学生に指導されていました。その様子を見ることは、生徒にとって発表の仕方を学ぶよい機会になりました。



第2部では、留学生の発表を元にして各国での諸問題を理解し、「その原因は何か」、「どうすれば解決できるか」グループディスカッションを通して考えました。中矢先生が Problem Tree の作成について全体に指導をしてくださいました。この Problem Tree を使って問題の原因、複数の原因がある場合は解決の優先順位についてグループで話し合いました。そして、具体的な問題解決方法についてアイデアを出し合っていました。



グループディスカッションでは、Problem Tree を用いた話し合いが円滑に進むように留学生が中心となって話し合いが進みました。また、留学生は生徒の英語表現がよりよくなるようにと、わかりやすい英語、伝わりやすい英語を指導してくれました。ディスカッションは徐々に白熱し、時間が経つにつれて次第に距離が縮まっていきました。生徒と留学生も身を乗り出したり、立ち上がったたりしながら、自分の意見を英語で何とか伝えようと必死になる姿を見ることができました。



今回の話し合いでは、次のような手順で行いました。

- ① 「Human Activity & Environment」「Agriculture」「Poverty & Economics」の3つの中から1つテーマを選ぶ。
- ② そのテーマで指摘されている問題を書く。
- ③ その問題の原因を資料からの情報と自分の考えを合わせて書く。
- ④ 問題の原因を解決する方法を書く。
- ⑤ どの原因から解決していけばよいかの優先順位をつける。
- ⑥ グループでまとめた意見を他のグループに説明し、情報を交流する。



第3部の発表会では、代表に立候補した生徒が、グループで作成した **Problem Tree** を活用して他のグループにディスカッションのまとめを発表しました。3つのグループそれぞれが違うテーマに対してディスカッションをしていたので、他の班の発表内容に対して興味深く聞いていました。代表で発表する担当者をその場で決めたので、事前に準備をして話すような時間はなかったのですが、臆せず英語を使って発展途上国を取り巻く社会的課題についての考えを説明することができていました。参加した生徒にインタビューを行いました。その回答をいくつか紹介します。

【参加者の声】

○IDEC プログラムに参加をした理由は、外国の方と英語で話すことができるからです。また、4年生の体験グルーカルの講演でIDECの説明を聞いていたので、英語で交流がしくて参加しました。実際に体験して思ったのは、「発言をして存在感を出さないとだめだ」と感じました。今回は留学生の方が話し合いを進めてくださったので、次回は自分たちが中心になって話し合いの場面を作りたいと思っています。



○IDEC プログラムに参加をしたのは、外国の方と英語で話す機会は減多になく、話したかったからです。実際に参加をして思ったのは、「このプログラムに参加をしないのは損だ」ということです。実際にラオスやガーナの方の英語を聞く機会を持てたのはよい経験でした。今後は、自分の意見をもっと深めてさらに交流をしていきたいです。



○今回プログラムには、外国の方と英語で話したかったので参加をしました。提言のテーマが平和だったので、外国の方と平和に対する考え方の違いも知りたいと思っていました。実際に参加をして思ったことは、「本当に自分が思っていることを伝えるには、意見を出し合わないといけない」と感じました。そうでないと、表面上の交流になってしまうと思いました。



○今回は英語で交流ができる機会だと思ったので参加をしました。実際に体験してみると、自分が英語で思うように話せないことが分かりました。何とか今の自分のできる範囲では英語で話したのですが、留学生の方が常に引っ張ってくれたり、提案してくれたりして、話が進んでいきました。**Problem Tree** をグループで作る際にもやり方を教えてくれたり、考え方が間違っていた時に指摘してくれたりしました。次回は自分から発信できるようにしたいです。